

園長からの挑戦状

ちようせんじよう

やまのうえのがちやぽんから
すなばまで
すいろをつくれ

えんちようより



6月5日 くじら組（年長児）へ挑戦状を渡す

材料の意見を出し合う。

- 「牛乳パック、竹、バケツ、丸のもの、段ボール、画用紙」
- 水で濡れるとふにゃふにゃになる、テープを貼れば濡れても大丈夫。
- どうやって作る（加工する）？
- 牛乳パックに決定。

牛乳パックを加工する。

底を切り、テープで繋いでみる。

「段ボールカッターで途中まで切れ目を入れてから、はさみで切ると早い」

→ 園にあるだけのパックを繋げ、水を流してみたが長さが足りなく、繋ぎ目からも水がこぼれる。

「牛乳パックが足りないからお家からもってこよう」

「しっかりとまってないし、テープがすぐ剥がれちゃう」

「繋げて長くしたら、糸電話みたいに遠いのに声が聞こえる、顔も見れる！」



どうして水が漏れてしまうのか、みんなが持ってきた廃材で他に作れそうなものはあるのかを話し合う。

「テープのところに隙間があるから漏れるんだよ」

「テープのつなぎ目から中が見えるよ」

→ 各々が牛乳パックで作った水路をのぞき隙間がある事を確認し、“テープを変えてみる”
“つなぎ目をピッタリにくっ付けて隙間をなくす”という案が出た。

「ヤクルト(の容器)いっぱいあるからできそう！水が漏れてこなそう！」

「トイレットペーパーの芯も使えそう」

→ トイレットペーパーの芯・ヤクルトの空き容器で作りたいという子がいた為、この2つの材料でも作ってみることになった。

「ペットボトルはどう？」→水に強いけど、固いんじゃない？

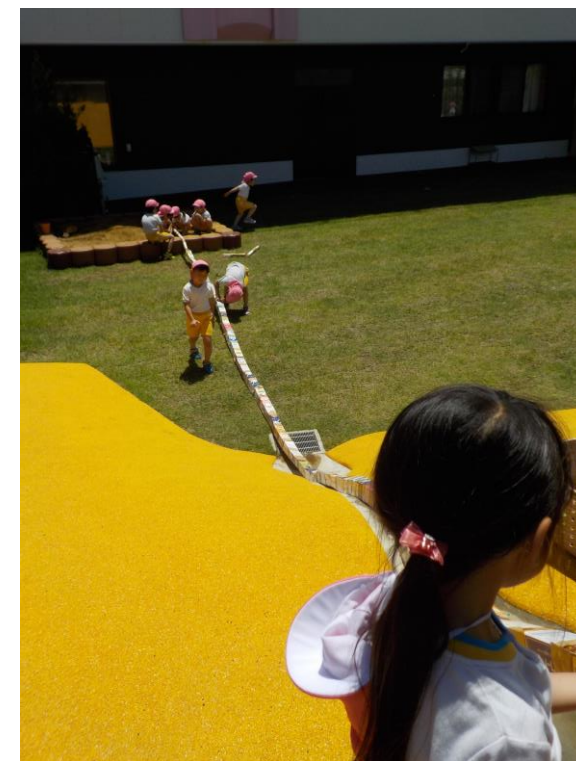
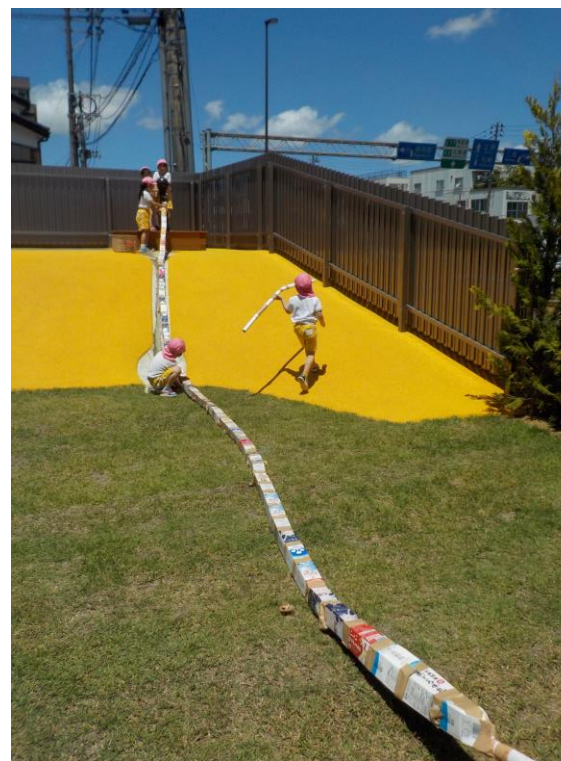
※今まで個人的に制作を進める姿が多かったが、テープを用意する役、繋げる際に抑える役、牛乳パックを加工(筒状に)する役と、**役割分担して制作を進める**姿が見られるようになってきた。



園庭にて水路制作・実験

繋いだ牛乳パックの長さが足りない部分に継ぎ足し、実際に水を流して実験を行う。
流してみる際に、「どうやったら水が流れるか」について話し合い、その後役割分担を決める。
みんなで水路を持ち、坂のようにしてみることになったが、持つことで脆くなっていた水路のつなぎ目部分が壊れたり、水が漏れたりしてしまい失敗に終わった。

→ 壊れた部分をまた貼りなおし、
作り直すことになった。



このあと・・・

水漏れしない方法について話し合い

- テープの貼り方、種類
- テープ実験、繋ぎ方実験



園庭にて水路製作・実験

- 水路が壊れる
- **作り直す**
- ビー玉を流す
- どこを流れているか見えない
- 流しそうめんみたいに上の部分を開ける
- 再び**作り直す**



12月11日

わずかですが、ようやく砂場まで水が到達。



【挑戦状を通して、子ども達の姿】 担任の考察

- ・ たくさんの話し合いを行う事で、子どもたち同士での**意見交換が活発**になったように感じる。
- ・ 段ボールカッター、ハサミ、様々な種類のテープなど道具の性質や扱い方についての知識が身に付いて、**遊びや作品展制作でも活用**していた。
- ・ 水路を目的として制作をしていく中での発見・気づきもあり、違う遊びに繋がる場面があり、**新しい遊びのきっかけ**になる事もあった。
- ・ 廃材への**興味、関心が高まり**、水路以外にも作って遊ぶ事の楽しさを感じている様子。
- ・ 制作する事への楽しさから、様々な物を作ろうとする**表現力の幅も広がった**ように感じる。
- ・ 高い棚の上にボールが上がった際に、すぐに大人に頼るのではなく、身近にあるものを使い、考えて必要な物(牛乳パックやサランラップの箱を繋げる)を作り出し、経験を活用して周囲と**協力しながら問題解決しようとする姿**があった。

園長の目的：問題解決能力（21世紀のかしこさ）、STEAM教育

STEAM教育とは

Science (科学)
Technology (技術)
Engineering (工学)
Art (芸術)
Mathematics (数学)

AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められている。(文科省)

Digital Workforce (Dwf)

